

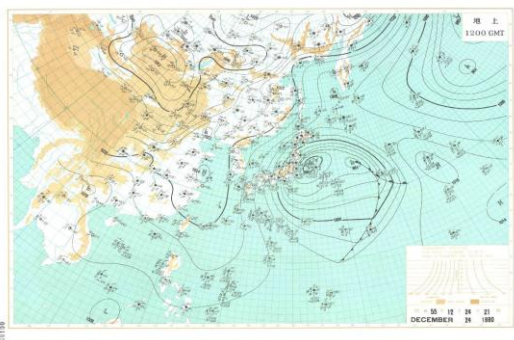
冬型気圧配置における地元での強風予測の試み

土井 修 二* (一般社団法人 日本気象予報士会)

<はじめに>

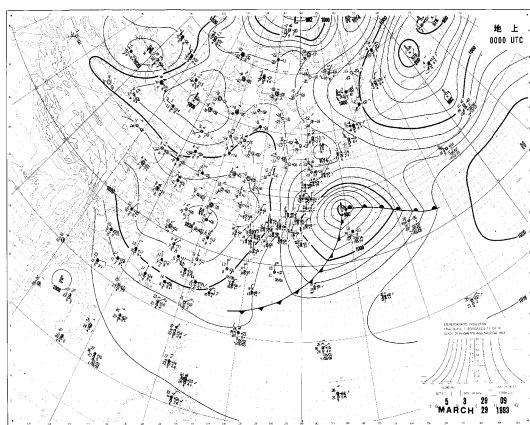
筆者は中学生時代より気象に興味を持ち、台風と並んで冬型気圧配置による降雪や強風についても予測する方法がないか、資料を集め観察を続けてきている。特に冬型気圧配置における強風予想について、今後皆様との意見交換を交えながらより一層の発展を望むものである。

[過去の強風事例①]



1980/12/24 (気象庁天気図)
日本の東海上で急速に発達した低気圧により、全国的に暴風。丹波地方では暴風雪となる。

[過去の強風事例②]



1993/3/29 (気象庁天気図)
東海上で急速に発達した低気圧により、丹波地方でも一日強風が吹き荒れる。

[強風発生時の気圧配置の特徴]

◎地上天気図

日本の東海上にて低気圧が発達。大陸から高気圧が張り出し冬型の気圧配置。一方近畿地方において

気圧傾度が大きく、風向は北風が卓越している。

◎700/850hPa.高層天気図

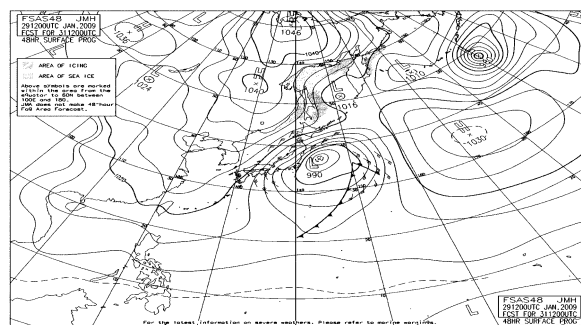
寒気移流に伴う等温線の傾度が大きく、地上と同様北風が強い。寒気流入の幅が狭いほど風速は大きくなるが、吹走時間は短くなる傾向がある。

◎500hPa.高層天気図

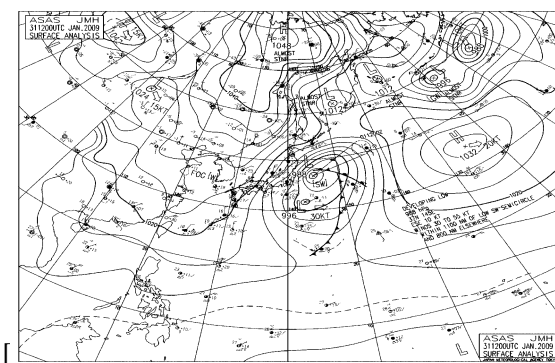
気圧場は東谷、ジェット軸は日本付近を西北西—西に流れる場合が多い。なお朝鮮半島付近で上層風が北風になる「偏西風蛇行」が発生した場合、低気圧の発達程度が低くても強風となる場合がある。

これらの特徴から予想気圧配置で類似の状況になる場合、強風が前日に予測出来るのではないかな？

[実際の予測成功例]



2009/1/29 12z 48時間予想図 (気象庁天気図)



2009/1/31 12z (気象庁天気図)

前日に強風発生を予測した。実際は1月31日夕方より強風が吹き荒れた。

<今後に向けて>

冬型気圧配置における強風予測の試みは研究の日が浅いため、今後も過去の強風事例と共に予測方法を検討し、将来は地域での気象知識の普及活動に役立てられることを目指していく所存である。

